

インドネシア国の開発ニーズ

- ジャカルタ都市部では深刻な交通渋滞により、大気汚染物質である窒素酸化物(NOx)の濃度が74 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と非常に高い。
- 13~14歳の生徒のぜんそく患者率は12.6%と日本の4.5倍に達し、健康被害が深刻。

普及促進事業の内容

- ACF大気浄化ユニットを交通渋滞の激しいジャカルタ幹線道路沿いの病院前に設置し、局所的な大気中NOx濃度の低減効果を実証。
- 実証データを基に、NOxの低減効果について、インドネシア公共事業省、ジャカルタ州政府等への理解を促進し、大気汚染対策の検討材料を提供する。

提案企業の技術・製品



ACF大気浄化ユニット
動力を用いず、自然の風を利用し、道路等に設置するだけで、NOxを80%以上除去する。

事業のポイント

- ・インドネシアの環境下におけるACFの効果実証と維持管理手法の確立
- ・インドネシアでの環境ビジネスモデルの検証

インドネシア国側に期待される成果

- 日本で開発したACF大気浄化ユニットの普及を促進することで、自動車排気ガスに由来する大気汚染を低減し、健康被害の軽減が期待される。
- 道路沿道における大気汚染対策の正しい知識を醸成し、環境整備政策の専門家を育成する。

日本企業側に期待される成果

現状

- 日本国内ではACF大気浄化ユニットは高い効果を実証されているが、道路環境整備の進展や低公害車の普及により市場は縮小傾向である。

今後

- 経済成長に環境整備が追いついていないインドネシアを始めとするASEAN、南アジアにおける大気環境の改善をはかると共にビジネス機会を創出する。